

会 議 事 録

1 会議名	第4回長岡市総合計画策定委員会
2 開催日時	平成27年5月26日（火曜日） 午前10時00分から午前11時30分まで
3 開催場所	アオーレ長岡 東棟4階 大会議室
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>丸山 智 委員長 水流 潤太郎 副委員長 中出 文平 副委員長 阿部 里奈 委員 有本 真由美 委員 遠藤 公一 委員 神林 茂 委員 鯉江 康正 委員 関 泰明 委員 高野 礼子 委員 年友 要子 委員 二澤 和夫 委員 樋口 勝博 委員 樋熊 憲子 委員 古川 貞子 委員 本田 史朗 委員 三井田 由香 委員 村山 道子 委員 鷲尾 達雄 委員</p> <p>(事務局)</p> <p>長岡市 金子政策監 長岡市市長政策室 近藤室長 長岡市政策企画課 中村課長 菊池係長 渡辺主任 池田主任</p> <p>(傍聴人等)</p> <p>傍聴人 4名 報道機関 4社4名</p>
5 欠席者名	<p>(委員) 大井 盛久 委員 太田 裕 委員 澤田 雅浩 委員 羽賀 友信 委員 星野 正子 委員 結城 和廣 委員</p>

6 議題	1. 開会 2. 委員長あいさつ 3. 議事 (1)総合計画と長岡版総合戦略について (2)次期総合計画の体系（方向性案）について 4. その他 5. 閉会
7 会議結果の概要	第3回策定委員会までの経緯を踏まえ、総合計画および地方版総合戦略の位置付けと次期総合計画の体系（方向性案）について意見交換が行われた。
8 会議資料	第4回次第 資料1 次期総合計画と総合戦略の位置付け 資料2 長岡版総合戦略骨子案 資料3 次期総合計画の体系（方向性案） 当日資料 政策の柱に関連する主な部局及び課
9 審議の内容	
委員長 政策企画課長 委員長 副委員長 市長政策室長	それでは本日の議題になります、議事（1）総合計画と長岡版総合戦略について、事務局より説明いたします。 （資料1、資料2に基づき説明） 総合計画と総合戦略は密接に関係しており、総合計画の中で総合戦略に関する部分を並行して、この委員会でも検討したいと思っております。 骨子案の良い点、あるいは悪い点を掲げた上で議論になればありがたいと思っております。 ご意見ございませんでしょうか。 骨子案が出てきたときの背景ですが、この骨子案は市の内部で作られたものでしょうか。今の総合計画は、基本的には市民の代表でやっていますが、市が基本的な方向性をまず提示して、議論するということでは、これと同じかもしれません。 この戦略骨子案というのは、政策企画課が、それ以外のチームと組んで、骨子案や、基本目標、リーディングプロジェクトを作られたと理解していいのでしょうか。そこのスタートラインのところを知りたいです。 たたき台として、若干メンバーが違いますけれども、政策企画課で作らせ

副委員長	<p>ていただきました。</p> <p>たたき台と言われますけれど、たたき台が示されると、たぶん5月に推進会議がスタートしても、基本的にはそれがスタートラインであり、ゼロベースで考えるということはないので、気になります。</p> <p>リーディングプロジェクトというのは、若者に向けてというときに、政策企画課の中で、例えば若者を基本的には35歳以下とすると、そういう人たちがどの程度、意見を言えているのでしょうか。</p> <p>今後の推進会議については、オーバー40くらいか、もしかするとオーバー50かもしれないですが、この会議と両方やっていくということになっていきますけれど、そもそもリーディングプロジェクトというのは、今の若者が本当に考えるような、アイデアなのでしょうか。私は日頃、若者と付き合っているので、とてもじゃないけれど、これではちょっと自信がないという感じもします。そのあたりのスタートのところを、このように15項目で示されると、みんないいなと思ってしまいます。そこが少し気になります。</p>
政策監	<p>ご指摘のとおり、スタートラインでどういうものを示せるかで、議論がだいぶ変わってくる可能性があるという点につきましては、おっしゃるとおりだと思います。政策企画課のほかにも、各部署からも知恵を集め、市長が確認した上で、この戦略骨子案が出てきております。この一つの特徴として、1,800の全市町村、県が同じようなことを作ることになっています。それをなおかつ、具体的に数値を出すとどういうことをやったら何がどう変わるか、出生率がこう上がるとか、帰ってくるUターン者が何人になるか、どういうものを出せるか、そういう命題の下にやっております。あまりそこに着目しすぎますと、全体が縮小してしまうため、記者会見で市長が申し上げたとおり、数字で表せないところにこそ、総合戦略における長岡の持ち味があるはずということで、こういうものを作らせていただいています。</p> <p>それからもう一つ、リーディングプロジェクトにつきましては、行政が日頃付き合っている若者の知恵を借りつつ出したものですが、これで全てをカバーしているとは考えておりません。上から2つ目に学生1,000人が集まりつながる交流イベントと書いてありますが、今後、若い方々からお集まりいただきながら、その輪をどんどん広げつつ、この総合戦略骨子案ならびにプロジェクトについてご意見をいただいて、それを柔軟に変更しつつ、8月になんとか成果に持っていきたいという内容です。ご理解をお願いいたします。</p>

委員	<p>数値化できるものを個別に分けて考える癖があるのですが、この戦略についていえば、理念を作って、基本目標を作って、リーディングプロジェクトを考えるとこういう形になるということは、なんとなく分かります。ですが、人口減少ということで考えると、人口減少には、自然増減と社会増減があります。自然増減は出生と死亡で、社会増減は転入と転出があるのですが、社会増減には理由があります。だから各理由に対してどういう政策をとっているのか、リーディングプロジェクトをこういう形で出すのはいいですが、それがどの理由で出て行っているのか、例えば学業で出て行っている人がかなりいると思うのですけれど、それで出て行ったとしてもどうやって帰ってきてもらうのか、そういうことを背景に考えて作られているのでしょうか。基本目標に対して、プロジェクトを作っていくつながりしか感じないので、そこをもう少し考えていただければと思います。</p>
委員	<p>総合戦略と次期総合計画の関係がかなり分かりやすくなっており、ありがとうございます。総合戦略について、私もネット等いろいろと見ていますが、いわゆる、まち・ひと・しごとに特化して、そこに集中的に資源を配分して、短期決戦型戦略というように、内閣府ではうたっています。やはりある程度、この5年間でどういうアウトプットやアウトカムができるかというのを特化して、長岡らしさをどこに置くか、というのが総合戦略の一番のポイントと思っています。</p> <p>ただ、二つ視点があると思っていて、やはり、まち・ひと・しごとというテーマでやるのであれば、企業的な視点、経営者の視点で、どう考えているかという意見をかなり吸い上げないとなかなか難しいだろうと思います。</p> <p>もう一つは、若者に特化した計画ということは、大上段にリーディングプロジェクトというのではなく、今長岡で若者がいろいろな活動をしている場面はかなりあります。この間、長岡CATをやらせていただきましたが、工業高校、農業高校、商業高校で連携してあれだけのことを、高校生がもうできるような時代になってきました。つい先週ですが、まちなかキャンパスの学生と一緒に会議をしましたが、日常的な中に学生はいろいろな意見を持っているのだということが十分分かります。学生の意見を聞くことに、そして意見を統括することによって、現役世代は逆に元気をもらえることがかなりあります。まさに総合計画や総合戦略のやり方が問題だと感じております。</p> <p>最終的には8月に作成完了ということになりますが、議会との調整というのはどのようにされるのでしょうか。</p>
政策企画課長	<p>議会との調整ですが、この総合戦略は議決を要さない事案になると考えて</p>

委員	<p>おります。これは手続き上の話ですが、参考までに総合計画は議決を要します。本質的な部分でいうと、議員の皆様との調整をはかって総合戦略を作るころは、総合計画となんら変わりはないと考えております。8月の策定完了までの間で、当然議員の皆様にご説明しつつ、ご意見をいただくような機会を設け、策定まで持っていくと考えております。</p> <p>私自身は移住女子というネーミングで、様々な活動をさせていただいています。私が住んでいるのは中山間地域ですが、リーディングプロジェクトに廃校を活用と具体的に書いてありますが、廃校だけではなく、田畑も荒れてきています。それを生かした中山間地の地域自体を活かした、そういったもう少し大きい視点で書いてもらえると誤解を生まないと思いました。</p> <p>また、移住女子という名前で、市外、県外でも講演をしています。そこでも中学生、高校生とお話させていただいたところ、アンケートが返ってくると、こんなに自分の地域がいいと思わなかった、こんな話大人たちから聞いたことないと、そういう話も多々聞きます。ぜひ、私のような移住女子、もしくは移住男子、最近では山男子と呼んでいるのですが、活用させていただいて、この県外、市外からきた人たちの視点を取り入れて、若者たちの気づきの目にさせていただきたいと思います。</p> <p>最後に基本目標5の現役世代が若者の志を応援するまちとありますが、これのリーディングプロジェクトを見ると、クラウドファンディングしか手段が出ていません。私は移住女子以外にもNPO法人の代表をしております。長岡の農業と職をプロデュースする団体ですが、この団体をやっていると、若者と一緒に何かをやりたいと思っても、なかなか資金源がなくて一緒に商品開発ができなかったり、流通に乗せられなかったりする現状もあります。そういった若者を応援する団体にもサポートが必要なのではないかと思えます。若者だけにお金を投資するのではなく、若者を応援する人たちに投資するののも一つ的手段だと思いました。</p>
委員	<p>私もこの計画にあるように、今私たちの世代が、これから地域を引き継いでいく若者を応援する立場というのはとてもいいと思っています。私もそうやって生きていきたいと思っています。</p> <p>今、人口減少は、全国で人の取り合いみたいになっていて、各県でもいろいろな政策が打ち出されています。空き家をリフォームするなど、同じようなものが多いので、長岡市はよそにないものを独自でやっていくといいと思います。</p> <p>その一つとして、このリーディングプロジェクト3の子育ての項目です</p>

	<p>が、就学前の子どもがいる子育てママを応援するものだけが から まで書かれています。本当に子育てで大事なものは、就学後に、学校から帰ってくる子どもたちを見守ってくれる施設があることです。そうすると、親は働きやすくなります。そのための学童保育の充実を一つ入れてもらいたいと思います。</p> <p>長岡版ネウボラとありますが、フィンランドの母子支援活動のことだそうです。私は長岡市の小学校には学童保育が必ずありますと言えるくらいに、学童保育の充実を5年間でしてもらいたいので、項目に入れてほしいです。小学生からの支援もやっているということを打ち出してほしいと思います。</p>
副委員長	<p>長岡市がいち早く総合戦略の骨子案を出したわけですが、国がかなり詳細なガイドラインを出しています。国は地方が知恵を出す、汗を流すと、それに対して応援すると言っていますが、かなり型にはめてきているという印象を持ちます。</p> <p>それに対して、長岡はまず若者を中心に打って出しています。一発かますということでしょうか。</p> <p>若者は、これで当事者意識をもってくれるのだろうか。このリーディングプロジェクトが若者の心をとらえているのだろうか。若者がこれをやり通せるのだろうか。策定のプロセスに若者が入っているのか。それらはこれから決着していかなければならないと思っております。</p> <p>人口減少は原因とメカニズムがあるわけですが、それに対して施策が効くのかどうかということを、科学的に検証しながら、施策を構築していかなければならないと思っております。一発かましたけれど、まだできていない部分をこれから埋めていく作業が必要と理解しています。</p>
委員	<p>子育てについてですが、子育て支援は保護者の支援が大切なのもわかりますが、先の10～20年を考えると、今の幼稚園、小学生の子どもたちも社会を担う重要な人口の層になっています。</p> <p>私は、ドロップアウトしてしまう子どもたちに何が必要かという、やはり教育だと思います。仕事はもちろんそうですが、働くための教育など、小学校のような基礎の部分が大切だと思っています。そこになかなか到達できない子どもたちも中にはいるため、その子たちもすくってもらいたいです。</p> <p>一緒になって引き上げていく、もっと子どもたちに焦点をあてたソフトの部分の支援をお願いしたいと思います。</p>
委員	<p>今ほど、教育の話が出ましたが、戦略の特徴1それから基本目標の5番、</p>

	<p>要するに若者の志を応援するために、現役世代が応援するという部分に、感銘を受けております。その中で、PTA 活動などを通じて多くの子どもたちや教員と接触して一番感じるのは、やはり教員の方の質です。子どもたちから聞こえてくるのは、教科書に書いていることを、たんと教えている教員はつまらない、と。脱線はするかもしれませんが、いろいろなことを教えていただける教員との出会いが子どもたちの挑戦や意欲を駆り立てると感じます。ぜひ、長岡市独自の教員の採用と長岡市で自己完結した教育プログラムを作っていただきたいと思います。</p> <p>特に、中学校の3年間で志をもてるような考え方に持っていけるような指導者との出会いを、ぜひリーディングプロジェクトの中に入れていただければと思います。</p>
委員長	<p>ありがとうございました。他にも意見があるかもしれませんが、議事(2)「次期総合計画の体系(方向性案)について」に移ります。事務局説明をお願いします。</p>
政策企画課長	<p>(資料3、当日資料に基づき説明)</p>
委員長	<p>総合戦略の内容を見据えて、総合計画をまとめることとなりますので、本日の方向性案については、この場で決定することではありません。今後事務局で更にまとめた上で、ご意見をいただきたいと思います。</p> <p>ご意見、ご質問がありましたらご発言いただきたいと思います。政策の柱の分類や施策の方向、関係課等の変更点についてご発言いただければと思います。</p>
委員	<p>前回の話の中で、現行の総合計画のまちづくり戦略と政策をまとめた方がいいという意見が多数あって、今回の政策の柱が6つになったかと思えます。前回示していただいたのは、8つあり、前回の2番目の定住・交流人口拡大戦略という項目と、日本一災害に強いまちづくり戦略という項目がなくなり、今回いただいた資料では6つになっています。今回示していただいた資料の中には以前の人口拡大というところの住み続けたい、住んでみたいまちを実現するという、大事な項目と思えますけれど、それが2番目の産業活性化の中に入り、前回の7番目の日本一災害に強いまちづくり戦略は、3番と4番に入っているということなのですが、とても大事な項目が2つなくなったこの経緯について説明していただければなと思います。</p>

<p>政策企画課長</p>	<p>今言われたとおり、前回の8本から2本減ったように見えますが、これからある程度横断的に部局で議論していくときに、最終的には前回お示した方向で分かれることももちろんあると思います。ただ、これから議論を本格化させていく中で、ある程度部局で細かくしない中で議論をした上で判断したいところがあり、まとめさせていただき、前回出した8分野のうち2つの分野を他に統合しました。</p> <p>また、今までは、名称にこだわる部分があったと思いますが、名称はこの時期、今日ご説明した総合戦略を一方で進めているため、少し緩やかにして考えております。それは委員の皆様に対してもそうなのですが、これからの庁内作業を考えたとき、名称ありきで議論をすることにならないよう、名称については少しトーンダウンさせていただいたということです。</p> <p>そのため、前回の方が塊としていいということであれば、6個にこだわるところではありませんので、そこは柔軟にしたいと思っております。</p>
<p>委員</p>	<p>そうすると前回例えば、日本一災害に強いまちづくり戦略ということで、すごく災害に強いまちとして長岡を引っ張っていくぞというような印象をもっていました。ちょっとトーンダウンしたわけではないということなのではないでしょうか。項目として、分野を示す言葉として挙げているということで、言葉に対してはこれから考えるということなのではないでしょうか。</p>
<p>政策企画課長</p>	<p>言われたとおりです。大きく2回タイミングがあって、総合戦略の最終的な計画を打ち出すときに、より上の方で使う言葉は尖らせていくと思います。それを受けて、総合計画でも言葉は印象をつけていきます。今までは言葉の方の議論が先に来るといったところがあったので、今言われたとおり、最後には詰めに入りたいと思います。</p>
<p>委員長</p>	<p>よろしいでしょうか。何かございませんでしょうか。</p>
<p>委員</p>	<p>ちょっときつい言い方になるかもしれませんが、関係する課というのは、何のためにここに書いてあるのかがよく分かりません。市役所内部の資料なら分かりますが、委員の皆さんに関係するのでしょうか。正直言ってあまり関係のない話で意味があるのかなという気がいたします。これは私の印象です。</p> <p>4の環境・都市機能の中に「効果的な土地の利用」という文言が入っておりますが、それは具体的に例えば施策の方向でいうとどこのところを指しているのかなというのが質問の1つです。</p>

	<p>それから2番目に私の意見を申し上げますと、先ほど人口の問題が出ましたが、自然増減、社会増減がありますが、いずれもいろいろな施策は打たないといけないものです。もう一つは交流人口をいかに増やしていくかという施策は、これからどうしても必要だろうと思います。そのような観点から見ますと、その項目はどこに入るのかというような気がしました。観光コンベンションという立場に立って言っている訳ではないのですが、やはり都市の魅力を維持していくためには、交流人口をどのように増やしていくかという施策が必要になるだろうという気がいたします。そういった項目をどこかに入れていただければと思います。</p>
委員	<p>これを見させていただいて、すごく私は違和感を持っています。これは、長岡の中だけを見ているんですね。</p> <p>交流人口のことについて、例えばまちの駅でいいますと全国で1,600か所ありますが、見附と長岡だけで約100か所あります。そうするとものすごい先進地域であると言えると思います。子育ての駅があり、健康の駅があるということで、様々なつながりを持っています。ですが、長岡の中の交流だけを見ていて、唐突に次に出てくるのは、ホノルルの花火など国際交流です。そうすると、合併地域の交流もあれば、他市町村、他県との交流もあるため、そこが無視されたのかという気がするので、ぜひどこかに入れていただきたいです。</p>
委員	<p>この総合計画で言葉は後からという話を聞いて、私自身は納得しました。その理由は、前回の1番目から8番目の言葉は意外と型にはまっていなくて、面白い言葉がいろいろと戦略の中でうたわれているという感じがしたので、今回の施策の柱は比較的型にはまっている言葉なのだという印象を受けました。それから施策の方向ですけれども、一例としてただあげていると思っております。例えば、産業の活性化ということになれば、今後、事業承継の問題があります。シティプロモーションということになれば、地域づくりとか、そういうものが今後盛り込まれていくのだというような感じがします。</p>
副委員長	<p>先ほど出てきた「効果的な土地利用」って何だろうというのは、とても気になるところです。20世紀は効率的な効果的なというのがいろいろなところで言われていたと思いますが、これからは4番で豊かな自然とまちの利便性が共生し、と書いてありますが、環境を守るならば、人間の利便性を少し抑えないといけないという時代になっていることも事実です。そういう中で</p>

	<p>「効果的な土地利用」というのは、下手をすると費用対効果の高い土地利用とすると、一方確実にそれは自然を蝕んでいる可能性もあるため、この「効果的な土地利用」という言葉は、ちゃんと考えておかないと、ぼんやりとした言葉がどのように使われていくのかすごく気になります。それについて、教えてください。</p>
市長政策室長	<p>現行の総合計画の中に土地利用構想というのがあり、そこで土地利用については触れられています。それを踏まえて、今回の政策の柱の中でこれはあくまでも案でしかありませんが、効果的な土地の利用というのがあります。確かにどういった土地の利用が効果的かについては、これから話し合っていくかなくてはいけないと思いますし、載せ方についても、もう一度検討させていただけたらと思います。</p>
副委員長	<p>現行の総合計画策定の部会の話なので私は分かっていますが、そのときは、「めりはりのある土地利用」という言葉にしており、効果的という言葉は決して使っていなかったと思います。その辺のところは、少なくとも今自治体運営は効率的である必要があると思いますが、他の部分は単純に効率的とか効果があがっていないとだめだということだと、なかなかうまくいかない部分もあって、そこはやはりパラダイムシフトしないとまずいのではないかと思います。少し気をつけてほしいという意味での発言です。</p>
市長政策室長	<p>交流人口は、どこになるかということですが、今この政策の柱の、ここで記述されていることで考えれば、シティプロモーションの中に入ってくると思います。ただ、前はまちの駅とか他地域との交流などがありました。それもやはり交流人口の一つでもありますので、そういったものも単に落とすのではなくて、それらを含めて、どこのところにいれたらいいかを考えなければいけないと思います。</p>
丸山委員長	<p>よろしいですか。他にご意見ございませんか。</p>
委員	<p>今話に出た交流人口というのは、市内のことだけで、市外となると飛んでホノルルとおっしゃったのですけれど、ホノルルで花火をあげるのも、私は合併地域ですけれど、自分たちであげているのだという意識でいます。そのため、合併地域の交流というのも、既に長岡市内なので、交流人口というのは、その外との交流という意味で、理解していますが、それでよろしいでしょうか。</p>

副委員長	両方ではないでしょうか。
市長政策室長	副委員長のおっしゃられたとおり、やはり両方だと思います。世界もあれば、内部での交流もあります。合併地域も一体化してきておりますが、いろいろな地域があり、私もまだ行ったことがない場所もありますし、大なり小なりそういう交流人口があると思います。
副委員長	私は将来像の方が気になっています。先ほど総合計画と総合戦略の関係性を資料1で説明されたときに将来像の中に、総合戦略の理念の部分が包含されているわけですが、これは資料3の将来像を見ますと総合戦略のところでは焦点を当てた、若者の志を未来に活かすや、それを現役世代が応援するといったところが、どうも読み取れないのではないかと考えています。従って、この総合計画の将来像の中には、やはり若者の志を未来に活かす、あるいはそれを現役世代、全市民が応援するというところを書き込むべきではないか思います。
委員	政策の柱にある、シティプロモーションという考え方を今後どうするのですが、これを見るとやはり、花火、錦鯉、長岡野菜というようなものを発信していくという捉え方が一番多いと思います。ですが、やはり長岡は中小企業がたくさんあり、製造業のまちです。最終製品はなかなかありませんが、部品の段階で、世界にシェアを持つ企業もあると思います。これからは、製造業に企業誘致という考え方を将来的に入れながら、ひと・仕事をつくっていくということからすれば、「長岡 NAZE」がいろいろと活動しており、「豪技」というブランド力で、全世界に出ています。やはりこういうことをシティプロモーションの中に、盛り込むことはできないでしょうか。産業界の話なので2番の産業活性化との兼ね合いもあるとは思いますが、目標をどこにするかによってシティプロモーションの位置づけになる政策になる可能性もあると思っています。今後シティプロモーションをどう捉えるかという議論の中で、ちょっと議論していただけたらなと思います。
委員長	<p>ありがとうございます。他にございませんでしょうか。</p> <p>一応予定しておりました議事は以上になります。</p> <p>議事全体をとおして、これまでの各委員の発言につきまして、各委員から何か意見がありましたらいただければと思います。</p>

委員	<p>先ほど、総合戦略の中で、述べたかったことがあります。</p> <p>若者に焦点があたっているのは大変すばらしいことだと思います。しかし、総合計画と合わせて見ますと、応援する側の現役世代、私も含めて現役世代が、どれくらい長岡に対して誇りを持ち、暮らしやすいと思っているか、子育てがしやすいと思っているか、そのところが抜けてしまうと応援ができないと思います。そのため、現役世代が長岡のいいところに気づいている、あるいは不便だと思っているところが解消されるような総合計画を作っていくって、その中で、若者を中心に将来的なところを、応援していくとか、いいところを伸ばしていくとかをしないと、現役世代は取り残されます。あるいは、現役世代が長岡に魅力を感じていなければ、決して若者の応援はできないと思いますので、その辺について総合計画を今後作っていく中で、もっとこういうところをこうしてほしいと思っているところを、より取り入れた形で総合計画を作っていきたいと思います。</p>
委員	<p>政策の柱の3番目の健康・安心の中に子育て支援、若者支援が含まれていると思います。しかし、その子育てを支援する人たち、今のところ現役世代、つまり私たちのことですが、それら上の年代の方たちが、自分たちが元気であれば、当然若者を応援する力もありません。自分が病気になってしまえば、自分のことしか考えられないので、私たちも元気になるようなことを3番に盛り込んでいただいた中で、改めて若者を支援するとか、長岡が、故郷がいいのだということを伝えていく、つなげていく力を育てていくということの必要性も出てくるのではないかと思います。人生も昔みたいに50年、60年ではなく100歳以上まで元気でいなければというのは、自分自身も感じていることなので、医療費も使わないように元気であるには、自分自身も力をつけないといけないという部分を3番の中に盛り込んでいただきたいと思っています。</p>
委員	<p>やはり若い人たちに期待する、それは非常に大事なことだと思います。ですが、まず、特に長岡の場合は合併地域があって、各地域において、地域の宝があります。それをまず自覚して、若い人たちに伝えることが大事な部分だと思います。</p>
委員	<p>若者に特化した形ということがありましたけれど、この若者とは、多分ゆとり世代があてはまるのではないかなと思います。これだけの長岡の総合戦略で彼らに本当に預けられるのか、彼らが本当に受け止められるのかが正直不安なところです。彼らが自分たちの未来を20年、30年後の未来を考えたと</p>

	<p>きに、いかに危機感を現実的にもっているのか。彼らが自らやろうとする力があるのか。逆に言えば長岡の若者たちは現実的にそういう力を持っているところを、ある意味示していただいた中で、長岡版の総合戦略というところが出てくるのではないかと思います。</p> <p>おそらく全国的に見ても、若者に焦点をあてた戦略はいろいろなところから出てくると思いますが、やはり長岡のこれまでの歴史、背景の中できちっと打ち出した中で、現実この若者たちに預けても、長岡はこの先未来が明るいというようなことを何か違った形でお示しいただきたいです。志を持ってもらえるというのではなく、既に持っているということ、きちんと訴えていただきたいと思います。</p> <p>総合計画の中で、施策の方向があり、いろいろとやるときに関係する課がありますが、項目について、例えば多世代健康づくりという一つの方向が出たときに、各課が集結して、事業等が一本化になるような、集結した形で、今度の具体的な動きになるのではないかと思います。逆に言えば、健康など、各課が同じ目標をいかに世代割り、縦と横にきちんと持っていきながら、事業を踏んでいく必要があり、より鮮明にしていけるとよいと感じました。</p>
委員	<p>長岡には大学がある、専門学校がある、これを元にしていくような感じが私はしました。</p> <p>私たちのような零細企業に勤めている者は大学を卒業した人や、専門学校を卒業した人はあまりいません。結局高校卒業して入ってくる人が多い中で、このリーディングプロジェクトを見ていると、学力がある人たちを集めて、というようなことを私は感じました。</p> <p>そういう中で、今現在長岡にもちゃんとお仕事をしている若い男性もいます、女性もいます。しかし、なぜ彼らが結婚しないのかということ考えたときに、やはり女性の地位が上がったといえますが、昔なら女性はある程度のお給料しかもらえないので、我慢ということではないですが、家庭を築いてきた親を見てきた部分がありました。今は自分がある程度お給料をもらえるので、何も我慢してまで、自分の自由と時間までも割いてしたくないということが多いのではないかと考えています。</p> <p>そして、いろいろな意味で同棲生活をしている方が結構多いのです。知らない方もいっぱいいらっしゃるかもしれませんが、彼らがなぜ同棲していて、結婚に踏み切れないのか、子どもを作らないのかといたら、経済的な問題とか、子どもを一人産んだらやはりお金がかかる、住宅だって、今一部屋か二部屋でいるところを、大きなところに住まなければいけないとか、い</p>

	<p>ろいろな部分があって、結婚できない、子どもを生まないという現実があります。</p> <p>皆さん、学歴もあるし、あまり考えられないかもしれませんが、そういう若者が長岡市内にたくさんいます。その人たちが、まずどうしたら結婚して子どもをもてるかを市として考えてほしいと思います。これから大学を出る若者ではなく、今既に働いている若者、その人たちが市外に出て行かないで、せっかく長岡に残って働いているその若者たちがどうしたらこれからの人口増などに関わっていけるのかを少しでも考えていただけたら、ありがたいと思います。</p>
委員長	<p>それでは本日の議事はこれで終了になりますので、進行を事務局にかえします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>(第5回の開催日程を確認)</p> <p>本日は貴重なご意見等、ありがとうございました。これを持ちまして第4回長岡市総合計画策定委員会を閉会します。</p>